

The background features a decorative graphic consisting of three blue circles of varying sizes, each with a lighter blue ring around its center. These circles are arranged in a vertical line, with the largest at the top and bottom, and a smaller one in the middle. Two thin blue lines intersect at the top left, forming a large 'V' shape that frames the circles.

# 令和3年度 第3回進路説明会

横浜市立浦島丘中学校  
令和4年3月17日（木）15:30～

## 今年度のおもな日程(参考)

月	おもな予定		備考
9	○2学期中間テスト(10・11日) ○第2回進路説明会(23日)	進路 選 択・ 学校 見学 等	※第1回進路説明会は6月に書面開催。
10	○仮成績配布(1日) ○第2回進路希望調査 ○職業相談(ハローワーク:希望者のみ) ○3年三者面談(19~26日)		○進路希望、志願・選考方法を徐々に絞り込む ○求人一覧表により就職相談 ○受験(検)パターンの確認
11	○2学期期末テスト(16~18日) ○進路用写真撮影(希望者のみ18日) ○第3回進路希望調査(下旬)		○結果と前期成績を参考に進路希望先を検討 私立高校の情報を考慮しての相談 ○希望・成績等を踏まえて方針の確認
12	○3年成績発表(1日) ○進路希望調査締め切り(3日) ●三者面談(4~9日) 学区・志願資格確認 私立受験校の確定(三者面談) 校長面接(私立推薦受験希望者対象) ●入試相談(15日、中高相談) ○公立願書・面接シート等配布(中下旬)	書類 準備 ・ 試験 準備	○方針の確定、受験(検)校の確定  ● <u>私立はこれ以後の変更は不可</u>  ●公立は年内には受験校を決め準備を始める
冬季 休業	26日(土)~1月5日(火) 始業式(6日)		必要なことを行う。 ・面接シート記入 ・私立高校願書調達(私立受験者のみ) ・願書下書き(担任確認後本書き) 等
1	○私立推薦入試 ●公立受験料振込(8日~) ●公立高校出願書類校内締切(19日) ●公立高校郵送出願(25日~) ○公立・共通選拔出願(28~1日)		○県立、市立、定通等により日程、金額が違う ○各種申請
2	○学年末テスト(上旬) ○公立・志願変更期間(4~8日) ○私立一般入試 ○公立共通選抜(15~18日)		○学力検査は15日 16・17・18日で面接・特色検査
3	○公立発表(1日) ○私立二次募集 ○公立二次・定通募集(3・4日) ○公立二次・定通志願変更(5~8日) ○公立二次学力検査(10日) 定通学力検査(12・15日) ○二次発表(17日)、定通発表(19日) ○定通二次募集(22・23日)		○二次募集・定通分割選抜は <u>どこにも合格していない人が対象</u> 。定員割れのあった学校のみ二次募集がかかる。 ※二次募集と定通分割は同時出願可能。

※コロナ関係の日程は募集案内(水色の本)の1ページ目に記載してあります

感染者または濃厚接触者と認定され2月の検査を受けられなかった場合

検査(試験)の期日 3月10日(水)

合格発表 3月17日(水)

# 1 今年度の入試について

昨年度と大きく異なる点としては

公立高校では、①出願が中学校から郵送になった。②コロナに関する追検査が設けられた。③合格発表がWEBになった。などがあげられます。

私立高校では、①出願がWEB&郵送が増えた。②試験や面接が簡略化(もしくは省略)された。③WEBでの合格発表が増えた。という傾向があります。(私立は学校ごとに入試方法が違います。)

今年度の入試について詳しくは神奈川県教育委員会のHP内にあります。資料後半にQRコードを載せてありますので、ご確認いただければと思います。

## 2 進路を選ぶとは

### (1) 中学校での進路学習

中学校で行われる進路学習は、「この位の成績ならば〇〇へ入れそうだ」という単なる成績による進学対策や就職対策ではありません。それよりも、お子様が自らの生き方を考え、主体的に進路選択をする能力を養い、さらに卒業後の生活によりよく適応し、社会的・職業的自己実現を達成していくのに必要な力を養うことをねらいとしています。

そのために次の4つの目標をおいて進路学習を進めています。

- ①自分自身をよく知ること。(自己理解)
- ②進路選択のための正確な資料の収集と活用。(進路情報)
- ③自分の将来の夢や希望を持って計画的な将来設計を立てる。(進路計画)
- ④自分をとりまく環境を考え、先生や保護者とよく話し合う。(進路相談)

### (2) 入学試験の難易度だけで判断しない

お子様にとって「良い学校」とはお子様がいきいきと充実感をもって学校生活を送ることができ、お子様の能力・個性を伸ばしてくれるような学校です。入学試験の難易度だけで学校を評価せずに、お子様が進学後、

- ①その学校での生活において、満足が得られ充実感が味わえるか。
- ②そこで学ぶことによってお子様が自分の個性を豊かにしたり、能力を伸ばしたりすることができるか。
- ③高校卒業後の人生に結びつくか。

などの視点にたって学校を選ばせるようにしてください。

### (3) 自分自身で考え納得して進路を決める

お子様自身が希望し、目的をもって進路を選ぶようにすることは、なかなか大変なことです。ただ、周りからの押しつけだけで入学した学校では、何かちょっと嫌なことがあっただけでもくじけがちです。お子様自身が考え、納得して進路を決めることが大切です。進路を考えるということは、お子様の将来の生き方を考え、生きる姿勢を身につけていくということです。生きる姿勢は、大人の押しつけではなかなか育っていきません。本人に自分の生き方を考えさせていくことが大切だと思います。保護者の方は、進路選択にあたっては、よき相談相手として、お子様自身の意見を尊重しながら、人生の先輩として助言してあげてください。

### (4) 個性や適性をよく見極めて

よき相談相手となるには、まずお子様を冷静に見て、よく知ることです。そのためには身体状況、性格、興味、適性、学習成績などを総合的につかむことが大切です。そして、お子様自身にも、自分の個性や適性をよく見つめさせ、自分に合った現段階での将来の夢や希望を考えさせ、その上で、目的をもって中学卒業後の進路を考えさせるようにしてください。

また、お子様の就職、公立・私立高校進学の方角づけに際し、経済的な面からの家庭の意向なども、お子様の判断材料として提供してあげることも必要だと思われます。

## (5) 良い点を認めて評価する

人間一人ひとり顔かたちが違うように、それぞれに違った個性があります。生きていく中でその個性を生かして、そして自分の得意分野で力を発揮して、生きがいをもって人生を送ることが幸せな生き方ではないでしょうか。

テストの出来不出来、成績などの学力だけでお子様を他と比べて評価したりしないように注意してください。兄弟姉妹同士でも同様です。そうすることが、お子様の個性、豊かな創造性や表現力の芽を摘み取るばかりでなく、健やかな心身の成長を妨げる場合もあるからです。お子様の良い点を認めて評価し、その個性を伸ばしてあげてください。

## (6) 何事も精一杯取り組む

生き方を考え、生きる姿勢を身につけるためには、身近な小さい目標にひとつひとつ着実な取り組みを重ねていくことが大切です。そのためには、教科の学習に限らず、学級活動、生徒会活動、部活動、その他の学校の諸行事の取り組み、さらには学校外での活動なども精一杯取り組ませてください。このことがお子様の進路を選択する力を養ったり、目標の進路先に向けて努力する姿勢を培ったり、この先、もし当面の目標が達成できなくても、それに負けずに新しい目標をつくり、努力し続けられる心を育てたりします。

## 3 就職について

横浜公共職業安定所が取りまとめたデータによると、令和2年3月の中学を卒業する生徒に対して、求人数27人で、前年度比37.2%減(前年度43人)となっており、今年度はコロナウイルス感染症の影響により、減少が考えられます。1年以内での離職率は約3割、3年以内の離職率が約6割と高く、厳しい状況が続いていると言えます。最初の求職動向調査(就職希望の有無の確認)は例年通りなら6月に実施されそうです。

## 4 県立職業技術校について

職業技術校は、職業に関する技術・技能を身につけることを目的とする県立の学校です。高卒資格は取れませんが、ハローワークで優先的に職業の紹介をしてもらえます。修業年限は6ヶ月から2年です。鶴見区にある東部総合職業技術校(かなテクカレッジ東部)などがあります。

## 5 専修学校について

専修学校は、職業教育や实际生活に必要な知識や技術を習得できる学校です。

専修学校には、その入学資格によって3つの課程に区分されています。それは、一般課程と高等課程と専門課程の3つです。中学卒業後に入学することができるのは、下の①と②です。高校卒業後に入学する専修学校がいわゆる専門学校といわれる③です。

- ①一般課程：特に入学資格を問わない。
- ②高等課程：中学校卒業程度の学力を有する者を対象とする。
- ③専門課程：高等学校卒業程度の学力を有する者を対象とする。(専門学校)

専修学校には各種学校と異なり、入学資格及び教員資格が法律によって定められています。

実生活や職業に関する技術について、より専門的な教育が行われ、職業に関する公的な資格(調理師、理容師、美容師など)が取得できる学校が多くあります。

また、一定の要件を満たす修業年限3年以上の高等専修学校の卒業生に対して、大学入学資格が与えられ、大学や専修学校専門課程への進学の間が開かれているばかりでなく、大学入学資格を基礎資格とする諸種の職業資格試験の受験や養成施設への道も開かれています。さらに、一部の専修学校では、ほかの通信制高校と連携し、卒業と同時に高校卒業の資格を得られる学校もあります。

## 6 各種学校について

各種学校は、家庭や職場ですぐに役に立つ技能と一般教養科目を比較的短い期間に習得できる学校です。修業年限は1年以上で、主に、洋裁、和裁、編み物、トリマーなどについてのものがあります。教育内容、教育方法、経費などは様々です。

## 7 通信制高校補習校(サポート校)について

通信制高校補習校(サポート校)とは、通信制高校に在籍する生徒が毎日通えるようにし、その中で通信制高校のレポート作成の援助などを通じて「3年間での高校卒業資格取得の手助け(サポート)」を行っている民間の教育機関です。

## 8 高等専門学校について

高等学校の専門教育を主とする学科より一層深く専門について学習し、工業に関する学科と商業に関する学科があります。修業年限は5年です。卒業後は実社会に進んで専門技術者として活躍する人が多くいます。また、大学進学を希望すれば、試験によって大学3年生に編入学できます。

工業に関する学科には、機械工学、電気工学、建築学、航空工学、情報通信工学、電子制御工学などの学科があり、商業に関する学科には、商船学科、電子機械工学科などがあります。

## 9 高等学校について

### (1) 高等学校の課程について

高等学校の課程は次のように分けられています。

#### ①全日制の課程

いわゆる朝登校し、昼間学習する課程です。(例外もあります。)修業年限は3年です。

#### ②定時制の課程

中学校を卒業した人が、決められた時間に高校教育を受けることができる学校です。

夜間のみ開校している学校もありますが、午前・午後に通うことができる学校もあります。

(夜間の例:県立定時制高校は、午後5時20分始業、午後8時50分終了、途中に給食の時間あり)卒業時に与えられる資格は全日制と何ら変わりありません。修業年限は4年ですが、単位の修得によって3年で卒業できる学校もあります。

#### ③通信制の課程

主として通信教育によって、高校の学習ができる制度です。この場合、生徒の自学自習をもとに、各人の学力や環境に応じた学習が進められます。もちろん、全日制と同じ高校卒業の資格が得られます。修業年限は4年ですが、3年のところもあります。

### (2) 高等学校の学科について

#### ①普通科(学年制)

中学教育をさらに発展させ、より高く幅の広い教養を身につけることを目的としています。大学や専門学校への進学のための学習に向いています。

#### ②単位制高校(普通科・総合学科)

全日制の学校ですが、単位制を基調とした新しいタイプの高校として開設されました。県内には、公立単位制高校が20校程度あります。以下にその主な特徴を挙げてみます。

ア) 学年がなく、必修を含めて80単位程度を取れば3年で卒業できる単位制の高校です。したがって、学年に関係なく、好きな科目を重点的に学習することができます。

イ) 授業の中から、自由に科目を選択し、自分の興味・進路希望・生活スタイルに合わせた時間割を自分で作ります。

ウ) 各高校では、普通科科目に加えて、高校独自の特色ある分野の学習科目が用意されています。

#### ③専門学科

就職に役立つ資格・免許などが取れ、就職に有利といえます。公立では、農業、工業、商業、家庭、看護、福祉、理数、体育、国際に関する学科などがあります。私立では工業や商業などの他、音楽科などを置いている学校もあります。

就職に役立つ資格・免許などが取れ、就職も有利な場合が多いといえます。また、最近では大学進学者も多くなっています。

#### ④総合学科

普通科と専門学科の内容を統合した学科です。以下にその主な特徴を挙げてみます。

- ア) 自分の興味や将来の夢に向かって、普通科から専門学科までたくさんの科目の中から幅広く授業を選ぶことができる「単位制」です。
- イ) 時間割は各自が自分の興味や将来設計に合わせて作ることができます。
- ウ) 体験的学習等が充実しています。

### (3) 公立高校について

#### ①特色

公立高校は学費が私立に比べて少額で済みます。男女共学です。各校の伝統や歴史などによって特色があり、各高校で「選考に当たって重視する内容」を決めて選抜するなど、より特色のある高校をめざしています。

また、県立高校改革に伴い、プログラミング教育、グローバル教育、インクルーシブ教育など指定校を定め取り組んでいくことになっています。

公立高校は、このように多様化してきていますので、各校の特徴をよく調べ、学校ごとの「選考に当たって重視する内容」を参考に、自分の適性を考えて選択するようにしましょう。

#### ②学区について

##### ア) 全日制普通科

平成17年度から県立高校の入学選抜における学区は撤廃され、原則どの学校にも志願できるようになりました。ただし、市立高校では横浜市在住であれば川崎市立の普通科のみ学区外受験となり、志願はできませんが、募集定員の8%以内での選抜となります。

保護者の方の一方が勤務等の関係で県外に居住している場合は、志願資格承認申請が必要です。

##### イ) 定時制・通信制の高校

全日制と同じですが、働いている場合は本人の勤務先が県内であれば、どの高校にも志願できます。

##### ウ) 国立の高校・高等専門学校

ほとんどの学校で学区制はなく、県外でも自由に志願することができます。選抜の方法についても、その学校で独自の方法をとっており、願書なども独自のものを使っています。

#### ③神奈川県公立高校の選抜方法について

神奈川県の入試制度では、全日制は共通選抜の1回、定時制・通信制は共通選抜(募集定員の80%)と定通分割選抜(募集定員の20%)の2回になります。検査の内容は、全日制・定時制が共通の検査(学力検査・面接)。通信制が面接または作文です。高校によっては、他に特色検査を行う場合があります。

共通選抜 全日制・定時制→第1次選考：募集人員の90%まで、調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出方法で選考されます。残りの10%は第2次選考(資料のない人等に配慮した選考)で選考されます。

分割選抜 定時制→調査書の評定(2・3年)と実施した検査の結果をもとに定められた数値算出方法により選考されます。通信制→調査書と実施した検査をもとに総合的に選考されます。

#### <数値算出方法>

調査書の評定A・学力検査の得点B・面接の結果Cとします。

A：(2年生の成績) + (3年生の成績) × 2

※3教科以内で2倍まで重点化する高校あり。

B：学力検査の合計点

※2教科以内で2倍まで重点化する高校あり。

C：面接の結果

A・B・Cそれぞれを100点満点に換算したものをa・b・cを各学校が定めた比率で合計数値を算出します。

$$\text{合計数値} S = a \times f + b \times g + c \times h$$

(f・g・hは2以上の整数で、f + g + h = 10)

特色検査を実施した場合は、その結果をDとし、100点満点に換算したdを加えます。

$$\text{合計数値} S = a \times f + b \times g + c \times h + d \times i$$

(iは5以下の整数)

#### ④学費について

令和3年度入学生は、以下のように予定されています。

県立全日制高校	： 入学科5,650円	授業料(年額)118,800円
県立定時制高校	： 入学科2,100円	授業料(年額)32,400円
横浜市立定時制高校	： 入学科1,200円	授業料(年額)32,400円
県立通信制高校	： 無料	授業料(1単位)350円(平日登校履修は700円)

### (4) 私立高校について

#### ①特色

創立者の精神や教育に関する理念に基づいて、各校で特色ある教育を行っています。宗教に基づいて教育を行っている学校も少なくなく、十分に調べてから選ぶことが大切です。また、日常の生活態度に特別留意して指導している学校も少なくありません。進学や就職指導も熱心に行われている学校も多く、学校によっては補習授業や特別のカリキュラムを編成しています。大学の付属高校等は、系列の大学に推薦入学できるところもありますが、必ずしもその高校の卒業生全員が推薦されるとは限らず、高校ごとに系列大学に進学できる生徒の比率が違いますのでよく調べる必要があります。私立高校も社会の変化に対応し、男子校・女子校から共学校に変更するところが増え、専門学科の改編を進めているところもあります。また、近年はインターネット出願の学校も増えています。

#### ②選抜方法について

多くの私立高校では、推薦入試と学力試験による一般入試が行われています。推薦入試では、学力試験ない場合が多く、主に面接が行われ、その結果と推薦書及び調査書を資料として選考が行われるところが大部分です。また、一般入試（学力試験による入試）では、3教科の試験（国語、数学、英語）と面接が行われ、その結果と調査書、資格や特技などを資料として選考が行われるところが大部分です。面接や出席状況を重視する傾向にありますので、普段から正しい言葉づかいや礼儀、身だしなみをこころがけ、理由のない欠席や遅刻をなくしておくべきでしょう。

#### ③学区について

学区制はありませんが、あまり通学時間の長い遠距離ですと、お子さんの負担になりますので、その点は考慮に入れる必要があります。

#### ④学費について

学費は各高校によりかなり差があります。入学金（施設費などを含み）約30万円～40万円、授業料年間約30万円～50万円が一つの目安といえます。

## 10 奨学金・学費援助制度について

奨学金制度は、教育の機会均等の保障を支えるため、向学心を持つ人がすすんで学習することを援助する制度です。日本育英会や県・市町村または民間の奨学金団体などの奨学事業が活発に行われています。

また、私立高校や私立高等専修学校などには学費補助制度や特待生制度があります。

詳しいことは、神奈川県教育委員会から3年次に配布されます「公立高等学校入学者募集案内」が参考になります。

### 参考リンク集

共通選抜  
学力検査問題

共通選抜について  
募集案内・実施要項など

公立高校  
授業料等

私立学費支援等

就学支援制度



横浜市立浦島丘中学校 卒業生のおもな進学先<順不同> (令和3年度)

公立 (全日制)

鶴見・神奈川・港北区	西・保土ヶ谷・戸塚区	川崎・その他県内	専門学科・普通科以外
神奈川県立鶴見 神奈川県立港北 神奈川県立岸根 神奈川県立横浜翠嵐 神奈川県立城郷 神奈川県立神奈川総合 神奈川県立新羽 横浜市立東	神奈川県立光陵 神奈川県立保土ヶ谷 横浜市立桜丘	神奈川県立大師	横浜市立みなと総合 神奈川県立金沢総合 神奈川県立鶴見総合 横浜市立横浜商業 神奈川県立神奈川工業 神奈川県立商工 神奈川県立磯子工業 神奈川県立横浜国際 川崎市立川崎 横浜市立横浜サイエンスフロンティア
中・磯子・金沢区	南・港南・栄区	緑・青葉・都筑区	旭・瀬谷・泉区
横浜市立金沢	神奈川県立永谷 神奈川県立柏陽 神奈川県立横浜清陵 神奈川県立横浜南陵 横浜市立南	神奈川県立川和 神奈川県立霧が丘 神奈川県立白山 神奈川県立新栄 神奈川県立元石川	神奈川県立希望ヶ丘 神奈川県立横浜旭陵 神奈川県立横浜緑園 神奈川県立旭

公立 (定時制)

神奈川県立神奈川工業	横浜市立横浜総合		
------------	----------	--	--

私立

青稜 横浜 東京 國學院 橘学苑 横浜創英 横浜清風 横浜学園 法政国際	東京実業 桐蔭学園 佼成学園 実践学園 広尾学園 英理女子 清心女子 白鵬女子 山手学院	目黒学院 三浦学苑 湘南学院 駒澤大学 横須賀学院 横浜創学館 鶴見大学附属 法政大学第二 東海大学付属高輪台	東海大相模 関東学院六浦 芝浦工業大学附属 麴町女子学園 中央大学附属横浜 日本女子大学附属 日本工業大学駒場 東京学芸大学附属
--	--	---	---

私立 (通信制)

飛鳥未来	秀英	あずさ第一	野田鎌田学園横浜
------	----	-------	----------